



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



ヨールガ半 一箱四拾銭價
此方水ニ溶稀シ他枝テ大根葉ニテ
燕草モ草木ニテ毛虫ノ生テ喰
其時振テ佳

毎月刊行 卷一

西洋雜誌

江戸開物社

價貳匁

西洋雜誌
每月一冊
第一

西洋諸國ハ新聞紙局あり。公私の報告。市井の風説を集め。或ハ毎月。或ハ毎七日。或ハ毎日それを印行し。互ハ新報を得るを競ふ。就中英吉利の如きハ新聞局の数六十有餘あり。万國ハ勝りて最盛なりと云。又諸学科の社中にも。毎月出版の叢書あり。新發明の説を泄さば集録し。速ニ同社に傳

ふつを以て學術の日、は開く、更極めて速
なり。吾等竊は其例はあり。諸学科の新況
ハさうなり。日用便宜の方法等を集めて海
内の同好は領しんと欲。今先二三友人の
譯稿を抄出し、嚆矢と爲。希くハ博雅君子
吾等の志を襄成せよ。

慶應三年冬十月

楊江柳河瞰識



西洋雜誌卷一

西洋諸國近代盛衰の大略

去る安政五年以來。今年に至るまで。條約を海
の通信の國。十一ヶ國なり。すなわち

オランダ國 フランス國 アメリカ合衆國

イギリス國 オランダ國

右五ヶ國ハ安政五年。條約を締結す。

ホルトガル國 フロイセン國 デ子マルカ國

ス井ッス國 ベルギー國 イタリア國

いづれもエウロパ洲に在リ

右六ヶ國ハ其後引續き追々條約を成し國なり。唐國ハ通商有る最久なり。近來改め條約ハ無之。右十一ヶ國の外ナリ。此外西洋にて有名の國ハオーストリア國。イスハニヤ國。スウェーデン國。トルコ國。ゼルメシ列國。三

十ヶ國。ギリシヤ國。アフリカ洲にてエジツト國。アジヤ洲の安南國。暹羅國。ビルマ國。ハルマ國。アラビヤ國。アメリカ洲のメキシコ國。ブラシル國。ペーリユー。ボリヒヤ。チリ。ラプラタ等の合衆諸國。其他の國ハ其の先づ是等の國の盛衰のつらきを知り其の學科を學ぶ。又通商交易を爲すに要する故。西洋歴史并に地理書の内より各國

帝王の年代。或ハ近頃の治乱其亡を抄出
。其大略を記す。もとより 雜記の事なれ
バ。最後の次第も。詳略も一様なり。看
るれを恠むるもなれ

オロシヤ國帝の系圖

ミカエル。ロマノフ 慶長年中國王となる
正保二年没

アレキシス 正保二年より延宝四年まで

ヘオドルオニ 延宝四より天和二まで

女イワシオ五 天和二より元禄二まで

ペートル大帝 元禄二より享保十まで

后カタリナ 享保十より享保十二まで

アレキシス 早世

ペートルオニ 享保十二より享保十五まで

女カタリナ

メクレンブルグ侯カール・レオポルドに嫁す

女アンナ 享保十五より元文五まで

女アンナ

ヨルヘンブルグ侯アントン・ウルリキに嫁す

女イワンオ六 元文五年迄。ほくろあり廢せり

女アンナ

ホルSTEIN・ゴットルプ侯カール・フレデリキに嫁す

女エリサベツト 寛保元より宝暦十二まで

ペートルオ三 宝暦十二より十三まで

右カタリナオ二 宝暦十三より寛政八まで

ホウルオ一 寛政八より享和元まで

アレキサンドルオ一 享和元より文政八まで

コンスタンティン 位を嗣ぐべし天保三年没

ニコラースオ

文政八より安政二ナゲ

アレキサンドルオ

安政二年位を嗣ぐ
即ち今の國帝ナリ

文祿慶長の頃。オロシヤ國大に乱る。隣國に
攻られ。衰微せしむ。ミカエル王の代に至る。て
國政を改革し。アレキス王の代に兵制をも
改め。強大の國とある。ペートルの代に至りてハ。
自ら和蘭英吉利等の諸國を周遊し。造

舶航海の學を傳習し。交易の路を通し。富国强
兵の術を尽し。民に礼義を教へ。城郭を築き。不
毛の地を開きおどろく。一代の成功ヲげり。數
へ難し。此ペートルの代に遷^ツる。都をペートル
ブルグと云ふ。此代より帝号を稱し。全世界中
第一の大國とある。ペートル帝没し。后カタリナ
國政を握り。翌二年。此后も亦英邁の女主と
し。國勢を隆^オさる。然るにカタリナは先^{スケレクル}

帝の後妃とかなどあり。前。大臣メンシコフと
いふ者の侍妾あり。故に。帝の没後。復メンシコ
フと相通じ。后没し。後。ペートル帝の孫。ペートル
第二。位を嗣ぐ。ペートル第二の父アレキス^{サキ}は
より先。父帝の意に忤ひ。誅せられ。切
メシコフを獨り國政を擅^{オホシ}り。程無
く貶竄せられ。シベリヤの地に終まり。ペートル
第二没し。女主人アナ位を嗣ぐ。此時代より
是はトルコと國境の地を争ひ。戦争あり。
オロシヤ。方利を得る。度々。國勢強盛
なり。其後アレキサンドル第一の世に至り。フラン
ス帝ナポレオン第一。大軍を以て攻寄せられ。共
終に敗北し。歸き。ポーランドも元来オロシヤ
の隣國なり。昔ハオロシヤ國と争ひ競ひ。程
の勢なり。後末次第に衰へ。漸くオロシヤ
は蠶食せられ。オロシヤ帝ニコラースの代。天保

三年以来、全くオロシヤの領地となりし。ポーレン
の都ワルサウィツ地方。オロシヤより代官を置
き、治むる事となりぬ。嘉永六年トルコ國と
戦争す。起す。イギリス、フランスの兩國よりト
ルコを援け、互に勝敗あり。此戦のいかに、援ら
ざる間、ニコラース帝没せり。其子アレキ
サンドル第二位を嗣ぐ。此代より、安政三
年。英佛、トルコの三ヶ國とオロシヤ國との和
議整ひ、フランスの都パリにおいて會盟し
た。文久三年、ポーレンの地より一揆起す。騒動
あり。是も程なく止む。初オロシヤ
國の使節始めて日本に来り。文化元年
よりアレキサンドル第一の代あり。此時通信通
商を許され、空く歸國し。然るに文化
三年オロシヤ人蝦夷地を乱妨せり。更なり。其
後日本よりオロシヤを仇敵の如く思ひ。其後

オロシヤ人ゴロウニシといふ者。偶日本に来りし
をも。彼、乱妨人の同類なりと。疑ひて。獄に
繋ぎて。弘明あるが。終にゆるされて。帰
國を得たり。それより三十餘年を経る。ニコ
ラース帝の代。布帖廷やうし者を使節と
し。日本と差越し。より。西國の
交際を。めて。開け。互に往來する。更とある

論

○國を富むるは先づ學術を開くべきの

古の學士ロビケツト曰。此地球は無數の珍宝に
満ちて。取らざるは。更無く。随う用やれば。随
生ず。此理常人の能く知る所あるべし。只博
學多智の人の。これを了解し。とすなり。
蓋し財は一人の財あるべし。天下通用の財な
る。物産は一國一邑の物あるべし。萬國共用に

物なり。故に有を以て無に換^カふる。互市通商の
法は自然の天理に合へり。然れども只自然に任
せしむるのみ。人力を尽き支無ければ。之を取て
足らざる時あり。之を用ひて竭^ツるもきなり。故に
金石を採鍊し。草木を培養し。酒を醸し。塩を
煎し。糖を製し。蠶を養ひ。布帛を織し。紙を漉^スき。
油を搾し。蠟燭を造る等を初め。悉く人
工を假^カる。物産を充足せしむる也。
故に物産を開くを以て富國の第一義とせ
る。然るに無學無術。徒に物産を開くを
求む。費多く功少し。是を以て金石を採
る。草木を養ふ。塩を煮る。油を搾
る。糸を績る。機を織る。皆人工の上
に人智を尽し。費を省き。得る所を殖^コすの学
術有る。是を即ち重學と化學との二科とす。

此ニ学も百工の利を興その根本なり。此學術
盛ニ行ふも其極殆造化の功に参るに至
らん。豈唯國を富し兵を足そのものありや。
重學とも西洋名メカニクスといふ。一名器械
學是なり。化學も西洋名ケミストリーといふ。又其世に
ついで即ち分析學の莫なり。各其専門の書
に拠る學也。尚此外。金石學。植物學。動
物學。百工製造術等。つづれも其學科に入
る學ぶべきなり。

○ダイヤモンドも天下第一高價の物なり話

ダイヤモンド漢名鑽石。又金剛石といふ。其質
透瑩多く八面の形に結晶し。其色或ハ水
晶の如く。或ハ淡黄。或ハ褐色。或ハ青き
黒きと有り。其堅き莫萬物に冠する。之
を琢きて稜を失くさず。柄に嵌めし
者。以て水晶より玻璃をも切るべし。此

物東印度及びアメリカの巴西國ブラジルより出
づ。其細コきものハ皆これを用ゐる玻瑤ビイドロを
切りの料とせん。價甚貴とせん。稍大粒の
ものハ琢ミカきく飾カザリとせん。其價の高き
夏本文ナツノモノ云々ナニナニ如し。

カラートき秤量の名。四グレインより少く此方の六厘九毛許ある。

一個の重さ一萬力よりも重々れど價随て騰
貴む。二萬力の者も既に百九十二フランク
なり

